

洞爺湖温泉入口に設置された
鹿のモニュメントと花壇



特集

アイヌ文化に親しみ、伝える

広報8月号では、町にゆかりのあるアイヌ文化について紹介しましたが、今月はアイヌ文化に親しみを持つことができる町の取り組みを紹介します。

町ではアイヌ文化に親しみや興味を深めてもらい、伝統を伝えていくために「アイヌ民族共生拠点施設の整備」「アイヌ文化体験環境の整備」「アイヌ文様ラッピングバスの導入」の取り組みを進めています。

アイヌ文化を身近に感じることで、アイヌ文化に親しみを持ち、魅力や伝統を次の世代へ伝えていきましょう。

アイヌ民族共生拠点施設の整備

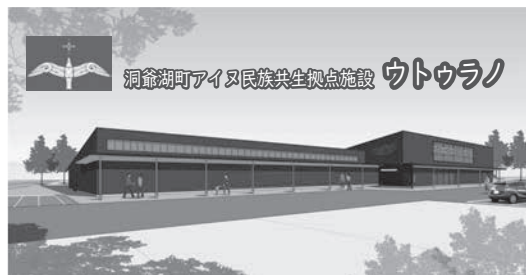
この施設は、アイヌの人たちと地域の人たちがアイヌ民族について理解し、アイヌ文化や地域文化を継承するための活動拠点となる施設です。

今後、アイヌ文化の魅力を伝えていく事業を展開していくことから、アイヌ語による愛称をつけました。愛称の決定にあたっては、町内小・中・高校生児童・生徒の皆さん計403人による投票を行い、1番投票数の多かったのは「ウトウラノ」でした。9月に開催される議会で正式に決定される予定です。

「ウトウラノ」はアイヌ語で「共に、一緒に」を意味します。アイヌ民族共生拠点として、アイヌの人たちも地域の人たちも、共にアイヌ民族について理解し、伝承していく施設となるよう思いを込めています。

施設には、アイヌ民族の衣服、儀礼用具、民具類のレプリカを展示しアイヌ文化を身

近に感じてもらうとともに、アイヌ教育に一生を捧げた白井柳治郎氏の功績を紹介するコーナーを設ける予定です。また、アイヌ民族の伝統的な先祖供養であるカムイノミ・イチャルパを室内で行える設備（炉）も敷設し、季節や天候に左右されることなく実施できる会場の整備を図るほか、アイヌ文化を継承するための活動として、アイヌ刺繍教室などのアイヌ文化を体験する講座や各種事業も展開していく予定です。



特集 アイヌ文化に親しみ、伝える

アイヌ文化体験環境の整備

アイヌ文化を体験できる施設整備と、アイヌ文化の魅力発信やアイヌ文化に対する理解の促進を図ることを目的に洞爺湖文化センターを活用して、アイヌ文化体験環境の整備を行います。

アイヌの人たちが先住民族であることの認識を示すとともに、この地域でも多くのアイヌの人たちが暮らしを営んできたことから、この文化を体験できる臨場感のある空間を演出する体験設備などを整備します。

ンなどのユリ科を中心とした花を飾ることにしました。

今後は、町のアイヌ語地名の由来と町内の文化財を説明したマップなども作成する予定です。

この事業を通して、洞爺湖町のイメージである温泉や豊かな自然などに「アイヌ文化」をプラスすることで、町とアイヌ文化の関わりがより多くの人に知られ、この地域がもっと賑わう観光エリアになることを目指していきます。



湖畔遊歩道に設置されたオブジェとユリ科の花



洞爺駅前に設置されたオブジェとユリ科の花

虻田地区コミュニティバス



洞爺湖町アイヌ文様ロゴマーク

アイヌ文様ラッピングバスの導入

虻田地区コミュニティバスでは、バス車両と停留所が、洞爺湖町アイヌ文様ロゴマークを基調としたデザインをプリントしたものに変わります。

このバスが街中を走行することで、町民の皆さんの目に留まり、アイヌ文化を身近に感じてもらうとともに「アイヌ民族共生拠点施設」でも乗り降りできる予定です、アイヌの人たちや地域の人たちの移動や施設の利用にも活用できます。

車両のデザインは、8月の回覧で募集した4つのデザインに対する意見をもとに、現在最終デザインを選考しています。

新しい車両、停留所による洞爺湖町アイヌ文様ロゴバスの運行は、令和3年4月からを予定しています。